

様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和7年5月15日	
(宛先) 松山市長 殿	
提出者	
住 所 松山市文京町1番地	
氏 名 松山赤十字病院 院長 西崎 隆	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	松山赤十字病院
事業場の所在地	松山市文京町1番地
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	83 病院
②事業の規模	585 床
③従業員数	1620 人 (令和7年5月1日現在)
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	感染性廃棄物発生 → 院内一時保管庫 → 院内収集運搬 → 当院感染性廃棄物保管庫 → 収集運搬 → 中間処理 (焼却) → 最終処分 (管理型埋立)

(日本産業規格 A列4番)

（第2面）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

【特別管理産業廃棄物管理責任者】

松山赤十字病院 感染管理室長

【取扱統括責任者】

管財課長

【廃棄物取扱責任補助者】

病棟看護師長 外来看護係長 中央手術室看護師長・看護係長 病理診断課長
検査技師長

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状

【前年度（ 令和6年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	その他（別紙参照）
排出量	388.55 t	t

（これまでに実施した取組）
感染性廃棄物に関する教育を徹底し、一般廃棄物が混入しないように適切な分別を行い、排出量削減に努めている。

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	その他（別紙参照）
排出量	388.00 t	t

（今後実施する予定の取組）
手術件数などの増減による影響が大きく、感染性廃棄物の削減は難しいのが現状であるが、今後も一般廃棄物が混入しないように適正な分別を行い排出量削減に努めることとする。

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 職員に対して適宜廃棄物分別に通知等を行い、適切な分別を実施するよう努めている。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t

	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
1 現状	【前年度（		

1	現 状	【前年度（令和6年度）実績】		
		特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	その他（別紙参照）
		全処理委託 量	388.55 t	t
		優良認定処理業者への 処理委託 量	t	t
		再生利用業者への 処理委託 量	t	t
		認定熱回収業者への 処理委託 量	t	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託 量	t	t
		（これまでに実施した取組）		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	その他（別紙参照）
	全処理委託量	388.55 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	t	
	(今後実施する予定の取組等)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が 50 トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

9 ※欄は記入しないこと。

【別紙

】

1.令和6年度 特別管理産業廃棄物排出実績

特別管理産業 廃棄物の種類	①燃えやすい 廃油	②特定有害 廃酸	③特定有害 廃アルカリ	④特定有害 汚泥	⑤廃酸	⑥廃アルカリ
排出量	1.130t	0.006t	0.001t	0t	0.007t	0.006t

2.令和7年度 特別管理産業廃棄物排出目標

特別管理産業 廃棄物の種類	①燃えやすい 廃油	②特定有害 廃酸	③特定有害 廃アルカリ	④特定有害 汚泥	⑤廃酸	⑥廃アルカリ
排出量	1.100t	0t	0t	0t	0t	0t

3.令和6年度 特別管理産業廃棄物全処理委託実績

特別管理産業 廃棄物の種類	①燃えやすい 廃油	②特定有害 廃酸	③特定有害 廃アルカリ	④特定有害 汚泥	⑤廃酸	⑥廃アルカリ
排出量	1.130t	0.006t	0.001t	0t	0.007t	0.006t

4.令和7年度 特別管理産業廃棄物全処理委託実績

特別管理産業 廃棄物の種類	①燃えやすい 廃油	②特定有害 廃酸	③特定有害 廃アルカリ	④特定有害 汚泥	⑤廃酸	⑥廃アルカリ
排出量	1.100t	0t	0t	0t	0t	0t

